

科目	応用物理 (Applied Physics)		
担当教員	熊野 智之 准教授		
対象学年等	機械工学科・4年D組・後期・必修・1単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	極小の世界や光速の世界といった”非日常的”な世界の物理法則を、現代物理学の誕生・発展の過程と共に学習し、定性的に理解できる能力を養う。また、それらの諸法則が”日常的”に恩恵を受けている最先端のテクノロジーの礎となっていることを、応用例を学習しながら理解する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】原子、分子の概念および原子モデルの意味を理解できる。		トムソン、長岡半太郎、ラザフォード、ボーアの原子モデルについて、それぞれの特徴・違いおよび提案されるに至った背景を理解しているかを中間試験とレポートで評価する。
2	【A2】黒体放射理論とプランクの量子仮説の概念を理解できる。		黒体放射とは何かを理解し、プランクによる黒体放射理論の基本的な考え方および量子仮説が提唱されるに至った背景などを理解しているかを中間試験とレポートで評価する。
3	【A2】ボーアの仮説と実際のスペクトルの関係が理解できる。		ボーアの仮説の意味と水素原子の発するスペクトルとの関係などについて理解できているかを中間試験とレポートで評価する。
4	【A2】量子論および量子力学について、基本的な概念および古典物理学との違いが理解できる。		不確定性の原理やシュレディンガーの方程式の成り立ちを理解しているかを定期試験とレポートで評価する。
5	【A2】慣性系の概念と相対性理論について、基本的な事柄が理解できる。		ニュートン力学と相対性理論における慣性系に対する考え方の違い、アインシュタインの理論を理解しているかを定期試験とレポートで評価する。
6	【A2】核反応、核分裂、核融合の概念が理解できる。		種々の核反応、核分裂、核融合の起こる状況を理解しているかを定期試験とレポートで評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	プリント 「高専の応用物理」：小暮陽三編（森北出版）		
参考書	「物理学（三訂版）」小出昭一郎（裳華房）		
関連科目	3年応用物理，専攻科レーザー工学		
履修上の注意事項	3年の応用物理をよく理解し，履修すること。		

